

第5章 ソフト面でのバリアフリー（心のバリアフリー）

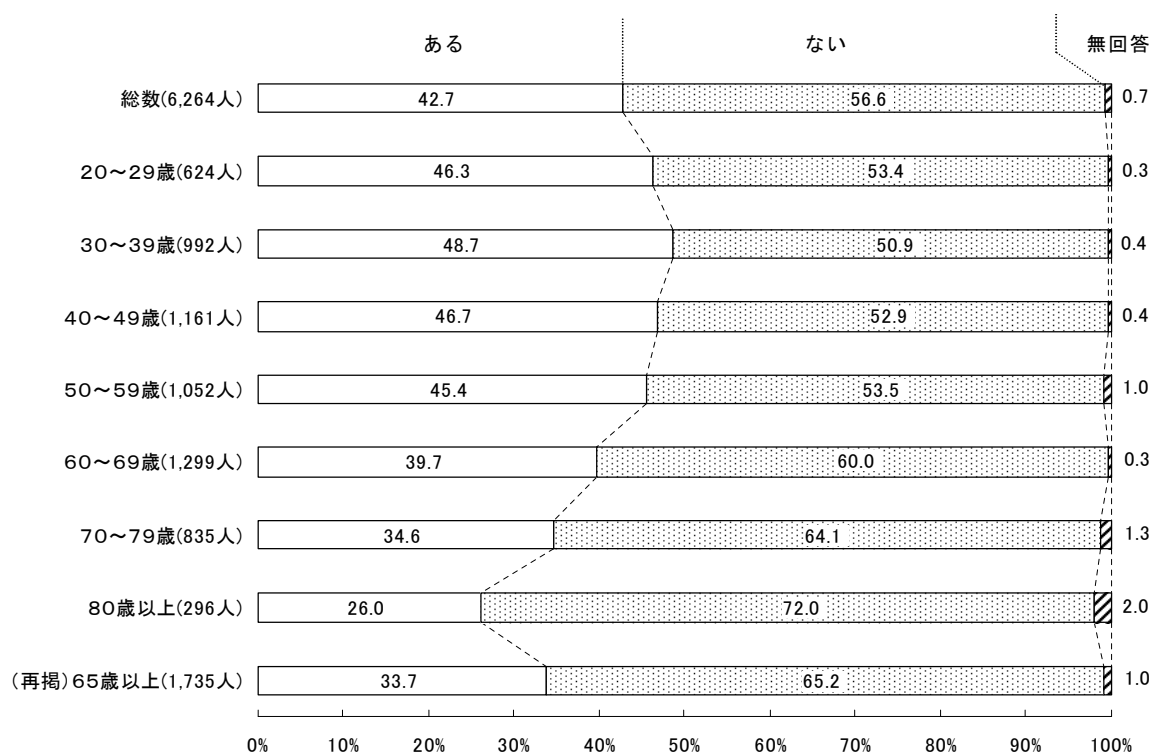
1 外出時に困っている人に手助けをした経験

（1）外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無一年齢階級別

「外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりしたことがある」人は、約4割

調査基準日（平成23年10月11日）から過去1年くらいの間に、外出の際、高齢者・障害のある方・妊産婦・乳幼児を連れた方などが困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがあるかを聞いたところ、「ある」人の割合は42.7%、「ない」人は56.6%となっている。（図Ⅱ-5-1）

図Ⅱ-5-1 外出時に困っている人を見かけたり、出会ったりした経験の有無一年齢階級別

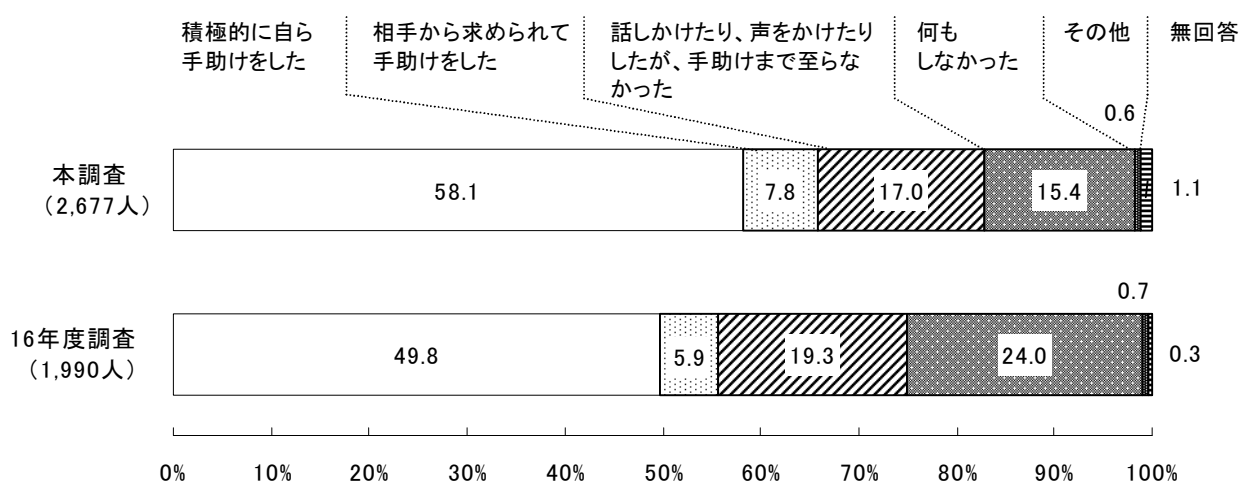


（２）困っている人を見かけたときに自分がとった行動－16 年度調査と比較

「積極的に自ら手助けをした」は、前回調査から 8.3 ポイント増加

困っている人を見かけたことがある人（2,677 人）に、その時どのような行動をとったかを聞いたところ、「積極的に自ら手助けをした」の割合は 58.1%で、16 年度調査と比べて、8.3 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-5-2）

図Ⅱ-5-2 困っている人を見かけたときに自分がとった行動－16 年度調査と比較

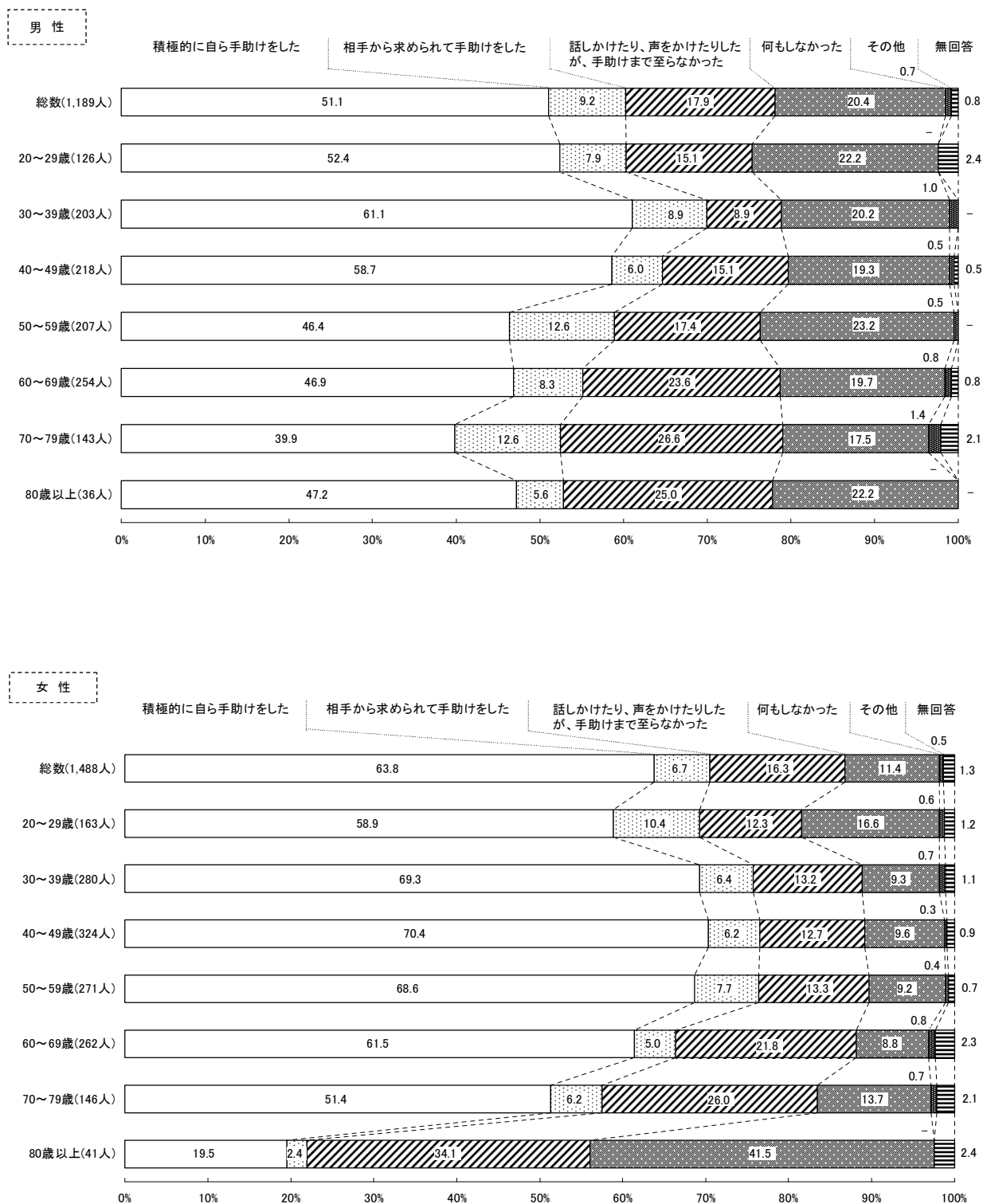


(3) 困っている人を見かけたときに自分がとった行動一性・年齢階級別

「積極的に自ら手助けをした」の割合は、男性より女性の方が高い

困っている人を見かけたときに自分がとった行動を性・年齢階級別にみると、「積極的に自ら手助けをした」の割合は、男性 51.1%、女性 63.8%と、女性の方が高くなっている。(図Ⅱ-5-3)

図Ⅱ-5-3 困っている人を見かけたときに自分がとった行動一性・年齢階級別



(4) 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕 一性・年齢階級別

「乗り物などで席を譲った」の割合が最も高く、約6割

「積極的に自ら手助けをした人（1,556人）」と「相手から求められて手助けをした人（208人）」に、どのような手助けを行ったか聞いたところ、「乗り物などで席を譲った」の割合が最も高く62.7%、次いで「扉を開けた」37.1%、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った」35.0%、「道を教えた」32.4%と続いている。

性・年齢階級別にみると、20代では、「横断歩道や道路で誘導したり、手を引いた」と「家族等に連絡した」を除き、全ての項目の割合が、女性より男性の方が高くなっている。（表Ⅱ-5-1）

（注）「その他」の意見（計112件）としてあげられた主なものは、以下のとおりである。

- ・転倒した人を起こした、介助した（20件）
- ・エレベーターの乗り降り、物を拾うなどの手助けをした（16件）
- ・目的地まで手を貸し、案内した（15件）
- ・救急車、警察を呼んだ。係員に知らせた（5件）
- ・買い物の手助けをした（4件）
- ・自転車が転倒したのを起こした（4件）

(5) 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由 一性・年齢階級別

「手助けをしていいものかどうかわからなかった」の割合が最も高く、35.4%

外出の際、困っている人を見かけたことがあるが、「何もしなかった人（412人）」に、何もしなかった理由を聞いたところ、「手助けをしていいものかどうかわからなかった」の割合が最も高く35.4%、次いで「忙しかった、急いでいた」12.6%と続いている。

性・年齢階級別にみると、65歳以上では、男性は、「手助けしていいものかどうかわからなかった」が34.5%で最も高く、女性は、「自分一人では無理だと思った」が27.1%と最も高くなっている。（表Ⅱ-5-2）

（注）「その他」の意見（計82件）としてあげられた主なものは、以下のとおりである。

- ・すでに他の人が手助けをしていた（23件）
- ・手助けの必要がなかった（16件）
- ・自分も病気や障害があり、手助けできなかった（7件）
- ・遠くにいた、車の運転をしていたなど、離れていて手助けできなかった（5件）

表Ⅱ-5-1 困っている人にした手助けの内容〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総 数	荷 物 を 持 っ た	横 断 歩 道 や 通 行 し に く い 道 路 で 誘 導 し た り 、 手 を 引 い た	階 段 の 昇 り 降 り の と き に 手 を 貸 し た	電 車 、 バ ス の 乗 り 降 り の と き に 手 を 貸 し た	車 い す や ベ ビ ー カ ー を 押 し た り 、 持 ち 上 げ た り す る の を 手 伝 え た	乗 り 物 な ど で 席 を 譲 っ た	道 を 教 え た	扉 を 開 け た	家 族 等 に 連 絡 を し た	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,764)	26.7	23.0	21.8	24.3	<u>35.0</u>	<u>62.7</u>	<u>32.4</u>	<u>37.1</u>	2.8	4.0	1.3
男	100.0 (716)	30.0	22.8	23.3	24.3	32.0	60.5	33.0	33.8	2.2	3.9	2.1
20～29歳	100.0 (76)	<u>32.9</u>	19.7	<u>23.7</u>	<u>27.6</u>	<u>31.6</u>	<u>76.3</u>	<u>47.4</u>	<u>50.0</u>	-	1.3	-
30～39歳	100.0 (142)	23.9	13.4	18.3	21.1	38.7	65.5	28.9	34.5	1.4	6.3	1.4
40～49歳	100.0 (141)	20.6	18.4	21.3	18.4	32.6	65.2	28.4	29.8	0.7	2.8	2.8
50～59歳	100.0 (122)	33.6	27.9	22.1	27.9	27.9	58.2	29.5	36.1	3.3	4.9	0.8
60～69歳	100.0 (140)	40.0	31.4	35.0	26.4	35.7	50.7	31.4	34.3	4.3	3.6	2.1
70～79歳	100.0 (75)	37.3	30.7	20.0	28.0	24.0	57.3	49.3	21.3	4.0	4.0	-
80歳以上	100.0 (19)	10.5	10.5	10.5	26.3	10.5	26.3	10.5	26.3	-	-	21.1
(再掲)65歳以上	100.0 (154)	33.8	28.6	25.3	27.9	27.9	50.6	39.0	25.3	3.9	3.9	3.2
女	100.0 (1,048)	24.4	23.2	20.7	24.2	37.1	64.2	32.0	39.4	3.1	4.0	0.8
20～29歳	100.0 (113)	<u>15.9</u>	20.4	<u>9.7</u>	<u>15.0</u>	<u>25.7</u>	<u>69.9</u>	<u>39.8</u>	<u>39.8</u>	3.5	0.9	1.8
30～39歳	100.0 (212)	20.3	17.9	16.5	23.6	44.8	65.1	24.1	48.6	1.9	2.8	0.5
40～49歳	100.0 (248)	21.4	14.5	16.5	22.2	41.5	63.7	32.3	37.5	1.6	6.9	-
50～59歳	100.0 (207)	23.2	25.1	18.8	20.8	39.6	63.3	31.9	38.6	4.8	2.9	1.0
60～69歳	100.0 (174)	32.8	35.6	31.6	31.6	31.0	64.4	30.5	36.2	5.7	4.6	1.7
70～79歳	100.0 (84)	39.3	35.7	40.5	36.9	28.6	61.9	42.9	32.1	1.2	4.8	-
80歳以上	100.0 (9)	33.3	22.2	22.2	33.3	22.2	22.2	44.4	11.1	-	-	-
(再掲)65歳以上	100.0 (159)	39.0	37.1	37.1	35.8	28.9	61.6	38.4	31.4	2.5	2.5	-

表Ⅱ-5-2 困っている人を見かけたときに何もしなかった理由－性・年齢階級別

	総 数	忙 し か っ た 、 急 い で い た	自 分 も 困 っ て い て 、 他 の 人 を 手 助 け で き る 状 況 で は な か っ た	照 れ や 恥 ず か し い 気 持 ち が あ っ た	他 の 人 が 手 助 け す る と 思 っ た	手 助 け の 方 法 が 分 か ら な か っ た	自 分 一 人 で は 無 理 だ と 思 っ た	手 助 け を し て い い も の か ど う か わ か ら な か っ た	手 助 け し た く な か っ た	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (412)	12.6	7.5	6.1	8.7	6.1	6.1	35.4	1.2	8.7	7.5
男	100.0 (243)	16.0	4.1	8.2	8.6	5.3	3.7	37.0	1.6	9.1	6.2
20～29歳	100.0 (28)	39.3	－	17.9	14.3	3.6	3.6	17.9	3.6	－	－
30～39歳	100.0 (41)	12.2	2.4	4.9	12.2	2.4	－	48.8	－	12.2	4.9
40～49歳	100.0 (42)	19.0	2.4	14.3	14.3	9.5	2.4	21.4	2.4	7.1	7.1
50～59歳	100.0 (48)	16.7	2.1	8.3	2.1	6.3	－	52.1	4.2	2.1	6.3
60～69歳	100.0 (50)	10.0	－	6.0	4.0	4.0	4.0	44.0	－	16.0	12.0
70～79歳	100.0 (25)	8.0	20.0	－	12.0	4.0	8.0	28.0	－	16.0	4.0
80歳以上	100.0 (8)	－	25.0	－	－	12.5	37.5	12.5	－	12.5	－
(再掲)65歳以上	100.0 (58)	6.9	12.1	3.4	6.9	5.2	8.6	34.5	－	15.5	6.9
女	100.0 (169)	7.7	12.4	3.0	8.9	7.1	9.5	33.1	0.6	8.3	9.5
20～29歳	100.0 (27)	11.1	－	－	22.2	18.5	3.7	25.9	－	3.7	14.8
30～39歳	100.0 (26)	3.8	11.5	－	7.7	7.7	3.8	30.8	－	19.2	15.4
40～49歳	100.0 (31)	19.4	3.2	9.7	－	9.7	3.2	45.2	－	6.5	3.2
50～59歳	100.0 (25)	8.0	16.0	－	4.0	4.0	－	60.0	－	8.0	－
60～69歳	100.0 (23)	4.3	4.3	8.7	13.0	－	8.7	34.8	4.3	17.4	4.3
70～79歳	100.0 (20)	－	35.0	－	10.0	－	20.0	15.0	－	－	20.0
80歳以上	100.0 (17)	－	29.4	－	5.9	5.9	41.2	5.9	－	－	11.8
(再掲)65歳以上	100.0 (48)	2.1	25.0	－	8.3	2.1	27.1	16.7	2.1	2.1	14.6

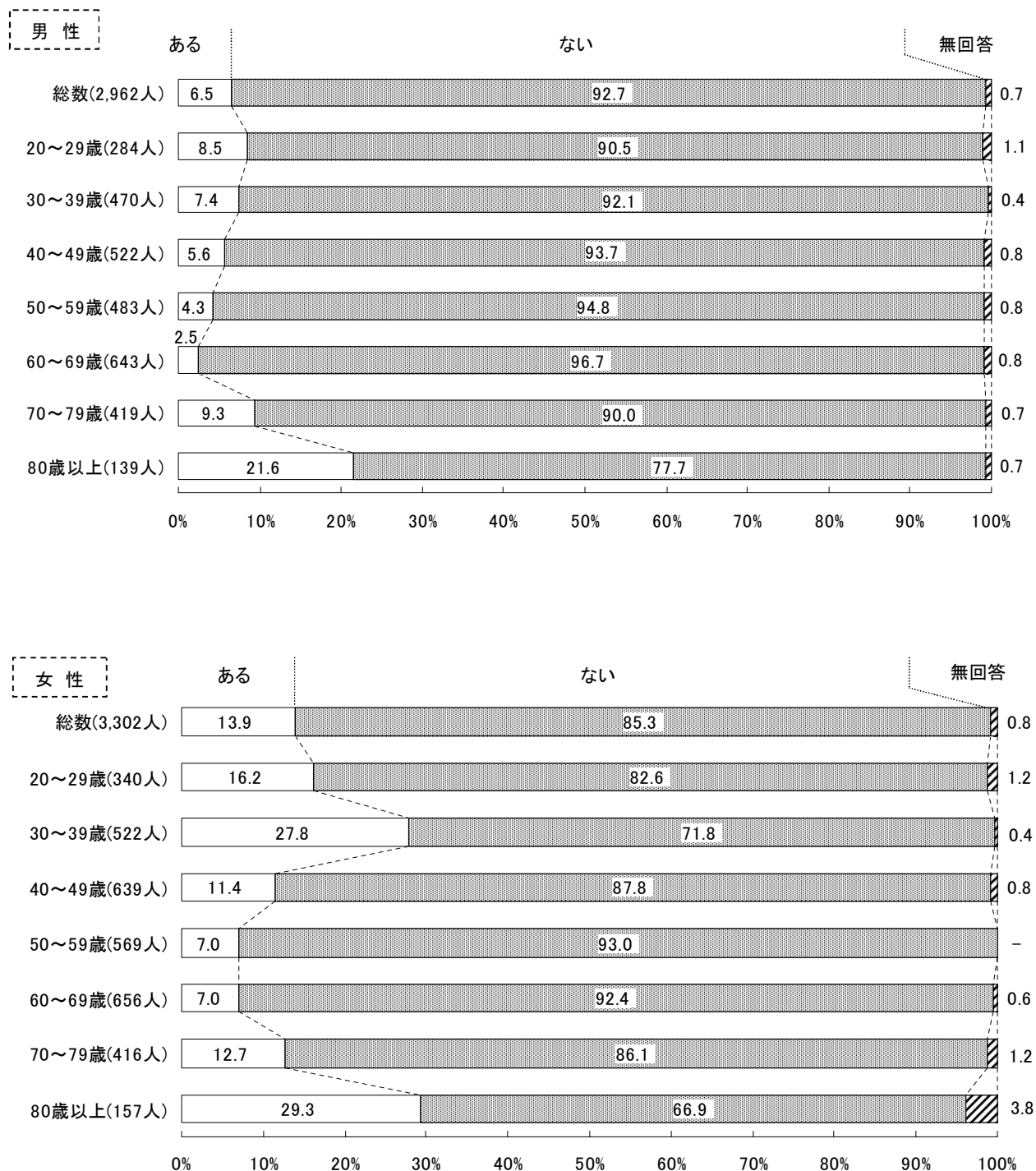
(6) 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無一性・年齢階級別

誰かの手助けを必要と感じた経験が「ある」の割合は、男性より女性の方が高い

調査基準日（平成23年10月11日）から過去1年くらいの間に、外出の際、誰かの手助けを必要としたことがあるか聞いた。

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を性・年齢階級別にみると、いずれの年代でも、男性より女性の方が「ある」の割合が高くなっている。（図Ⅱ-5-4）

図Ⅱ-5-4 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無一性・年齢階級別

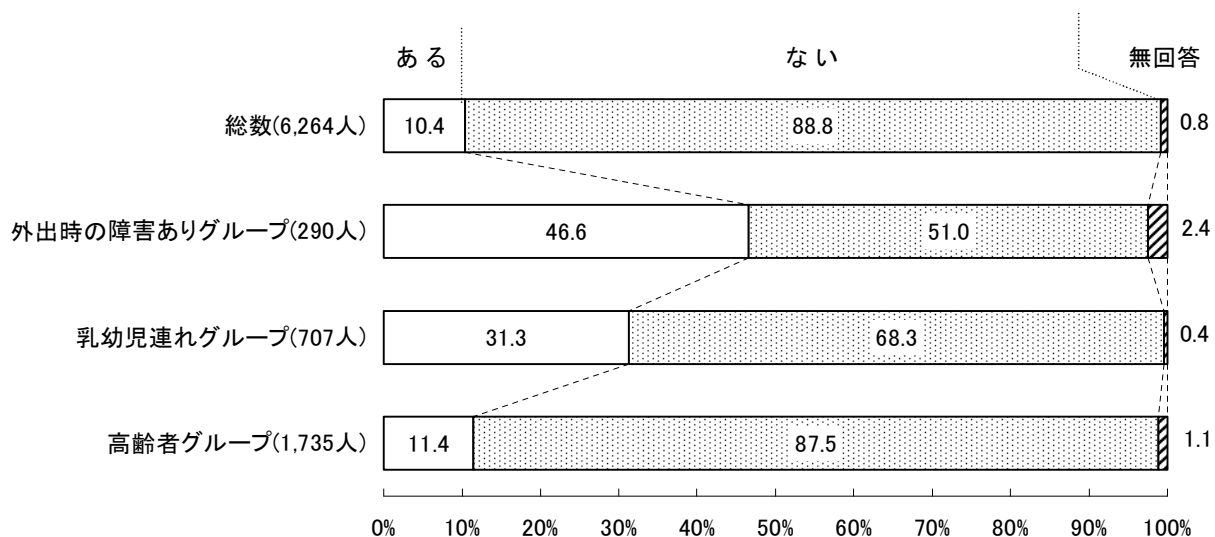


(7) 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－外出時グループ別

「ある」の割合は、「外出時の障害ありグループ」46.6%

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」は、「ある」の割合が46.6%と、総数に比べて36.2ポイント高くなっている。(図Ⅱ-5-5)

図Ⅱ-5-5 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無－外出時グループ別



(8) 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無

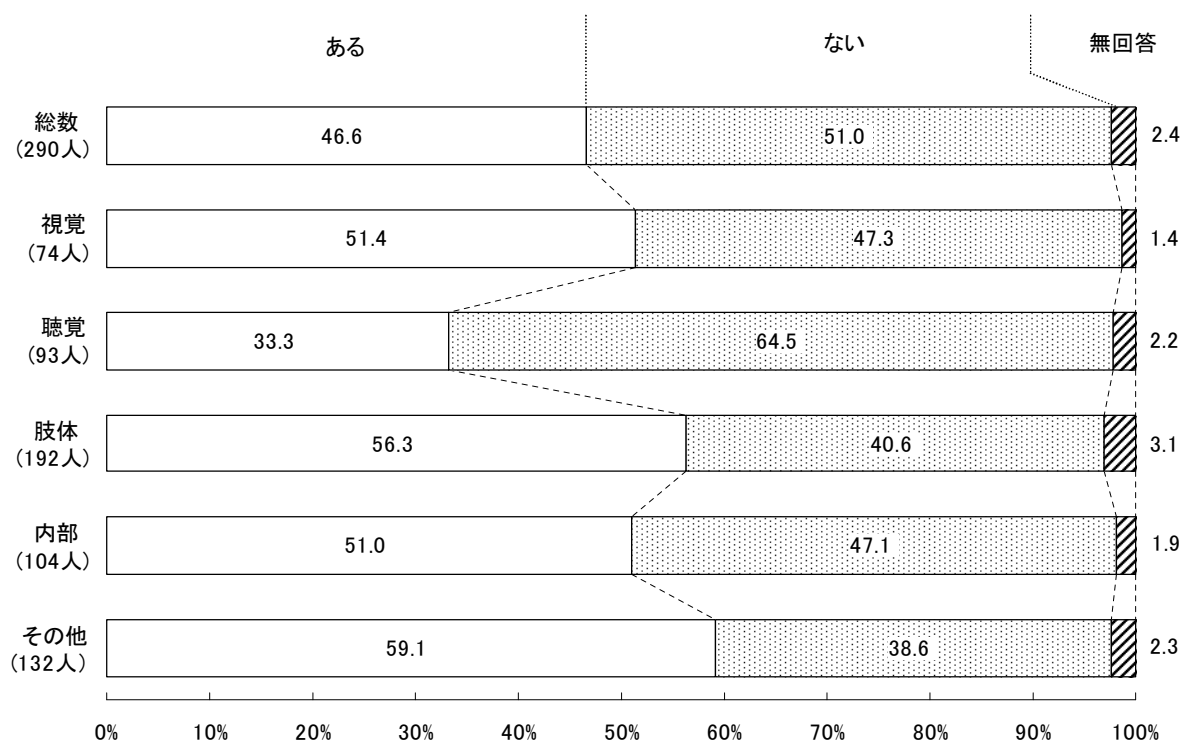
－外出時の障害（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

いずれの障害（聴覚を除く）でも、「ある」の割合は、約 5 割

誰かの手助けを必要と感じた経験の有無を外出時の障害別にみると、「ある」の割合は、「聴覚」を除き、いずれも約 5 割となっている。（図Ⅱ-5-6）

図Ⅱ-5-6 外出時に誰かの手助けを必要と感じた経験の有無

－外出時の障害（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別



(注) 「総数（外出時に何らかの障害がある）」、「視覚」、「聴覚」、「肢体」、「内部」、「その他」については、P87 の表Ⅱ-1-1 を参照。

(9) 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

一性・年齢階級別

「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が、男女とも最も高く、約4割

「誰かの手助けを必要としたことがある人（653人）」に、どのような手助けが必要だったか聞いたところ、「乗り物などで席を譲ってほしかった」の割合が最も高く43.2%、次いで、「荷物を持つのを手伝ってほしかった」30.2%、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった」25.3%、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」25.1%と続いている。

性・年齢階級別にみると、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった」の割合は、女性の方が男性よりも13.9ポイント高く、女性30代では54.5%と、5割を超えている。（表Ⅱ-5-3）

表Ⅱ-5-3 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

一性・年齢階級別

	総数	荷物を持つのを手伝ってほしかった	誘導したり、手を引いたり道路で、横断歩道や通行しにくい道路で、ほしかった	階段の昇り降りのときに手助けがほしかった	電車、バスの乗り降りのときに手助けがほしかった	車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった	乗り物などで席を譲ってほしかった	道を教えてほしかった	扉を開けてほしかった	家族等に連絡してほしかった	その他	無回答
総数	100.0 (653)	30.2	10.7	25.1	19.3	25.3	43.2	15.3	15.8	2.9	3.1	3.7
男	100.0 (194)	26.3	12.4	29.9	21.1	15.5	41.8	17.5	16.0	4.1	3.1	4.1
20～29歳	100.0 (24)	20.8	4.2	16.7	8.3	16.7	45.8	33.3	20.8	-	4.2	-
30～39歳	100.0 (35)	17.1	5.7	14.3	17.1	28.6	45.7	14.3	25.7	8.6	2.9	8.6
40～49歳	100.0 (29)	27.6	3.4	17.2	6.9	17.2	31.0	20.7	13.8	6.9	-	3.4
50～59歳	100.0 (21)	28.6	9.5	28.6	23.8	14.3	33.3	28.6	9.5	4.8	-	4.8
60～69歳	100.0 (16)	43.8	18.8	50.0	18.8	18.8	50.0	12.5	25.0	-	-	6.3
70～79歳	100.0 (39)	28.2	23.1	38.5	33.3	7.7	46.2	7.7	10.3	-	10.3	5.1
80歳以上	100.0 (30)	26.7	20.0	50.0	33.3	6.7	40.0	13.3	10.0	6.7	-	-
(再掲)65歳以上	100.0 (78)	26.9	19.2	42.3	30.8	9.0	46.2	10.3	10.3	2.6	5.1	2.6
女	100.0 (459)	31.8	10.0	23.1	18.5	29.4	43.8	14.4	15.7	2.4	3.1	3.5
20～29歳	100.0 (55)	23.6	-	10.9	14.5	32.7	45.5	16.4	12.7	1.8	3.6	3.6
30～39歳	100.0 (145)	20.0	4.1	15.9	19.3	54.5	46.2	11.0	19.3	0.7	3.4	0.7
40～49歳	100.0 (73)	30.1	1.4	19.2	16.4	26.0	38.4	19.2	13.7	1.4	1.4	1.4
50～59歳	100.0 (40)	40.0	15.0	22.5	12.5	15.0	27.5	17.5	15.0	5.0	5.0	2.5
60～69歳	100.0 (46)	39.1	10.9	19.6	13.0	15.2	50.0	10.9	17.4	4.3	4.3	4.3
70～79歳	100.0 (53)	39.1	10.9	19.6	13.0	15.2	50.0	10.9	17.4	4.3	4.3	4.3
80歳以上	100.0 (46)	41.3	34.8	47.8	26.1	8.7	52.2	10.9	19.6	4.3	2.2	8.7
(再掲)65歳以上	100.0 (120)	43.3	25.0	40.0	24.2	7.5	46.7	15.0	13.3	5.0	3.3	9.2

(10) 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

ー外出時グループ別

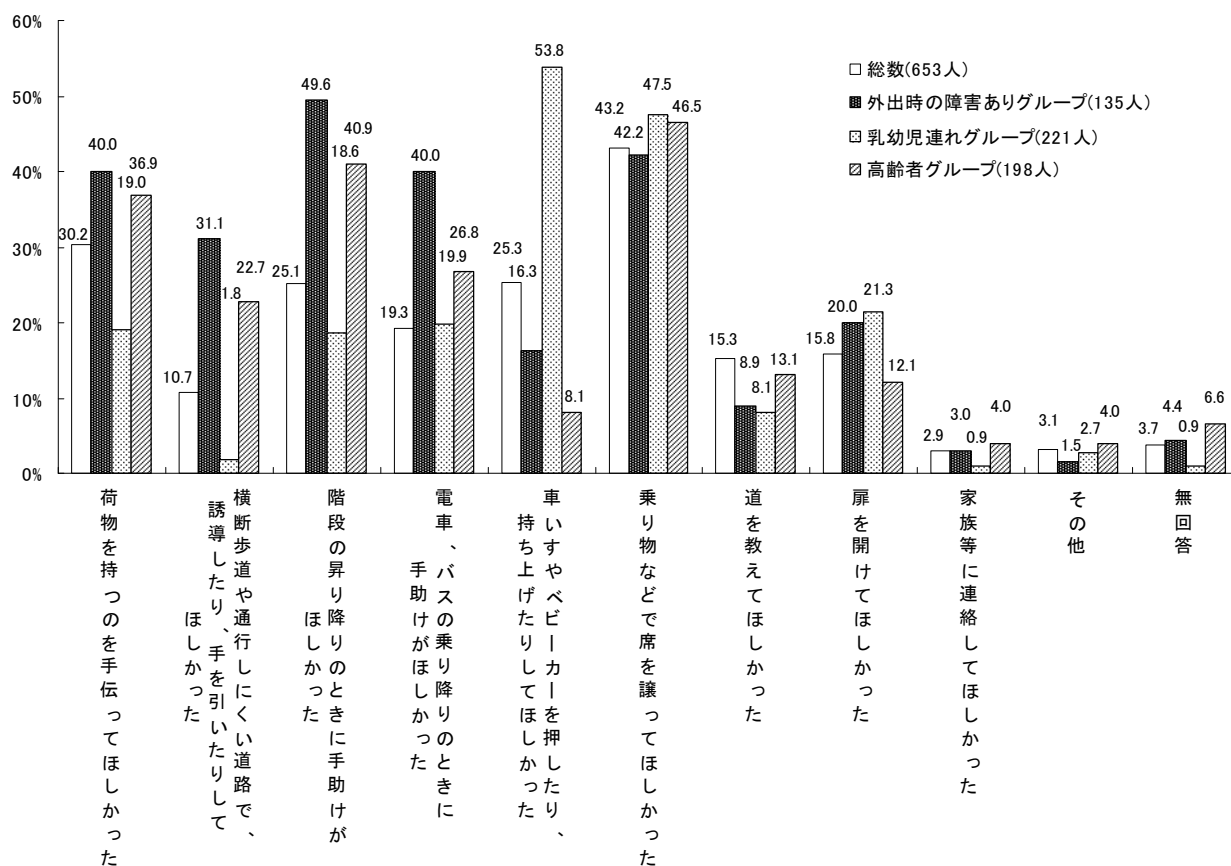
「外出時の障害ありグループ」は、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」の割合が高く、約 5 割

必要とした手助けの内容を外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」では、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」の割合が 49.6%と最も高く、総数に比べて 24.5 ポイント高くなっている。

「乳幼児連れグループ」では、「車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりしてほしかった」の割合が 53.8%と最も高く、総数に比べて 28.5 ポイント高くなっている。(図Ⅱ-5-7)

図Ⅱ-5-7 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

ー外出時グループ別



(11) 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

いずれの障害でも、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」の割合が最も高い

必要とした手助けの内容を外出時の障害の有無別にみると、いずれの障害でも、「階段の昇り降りのときに手助けがほしかった」の割合が最も高く、約5割となっている。（表Ⅱ-5-4）

表Ⅱ-5-4 誰かの手助けを必要と感じたときに、必要とした手助けの内容〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

	総 数	荷 物 を 持 つ の を 手 伝 つ て ほ し か つ た	誘 導 し か つ た	横 断 歩 道 や 通 行 し に く い 道 路 で、	ほ し か つ た	階 段 の 昇 り 降 り の と き に 手 助 け が	電 車 、 バ ス の 乗 り 降 り の と き に 手 助 け が ほ し か つ た	車 い す や ベ ー カ ー を 押 し た り、 持 ち 上 げ た り し て ほ し か つ た	乗 り 物 な ど で 席 を 譲 つ て ほ し か つ た	道 を 教 え て ほ し か つ た	扉 を 開 け て ほ し か つ た	家 族 等 に 連 絡 し て ほ し か つ た	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (653)	30.2	10.7	25.1	19.3	25.3	43.2	15.3	15.8	2.9	3.1	3.7		
外出時に何らかの障害がある	100.0 (135)	40.0	31.1	49.6	40.0	16.3	42.2	8.9	20.0	3.0	1.5	4.4		
視覚	100.0 (38)	42.1	42.1	<u>63.2</u>	63.2	15.8	44.7	23.7	28.9	10.5	2.6	－		
聴覚	100.0 (31)	51.6	35.5	<u>54.8</u>	54.8	19.4	54.8	16.1	32.3	9.7	－	3.2		
肢体	100.0 (108)	41.7	28.7	<u>51.9</u>	42.6	20.4	42.6	6.5	24.1	3.7	1.9	5.6		
内部	100.0 (53)	34.0	26.4	<u>50.9</u>	49.1	20.8	41.5	15.1	22.6	5.7	1.9	5.7		
その他	100.0 (78)	43.6	33.3	<u>57.7</u>	44.9	16.7	42.3	11.5	21.8	5.1	2.6	6.4		
外出時に障害がない	100.0 (504)	27.0	4.4	17.9	12.9	28.0	43.8	17.5	14.5	3.0	3.4	3.4		

第6章 ユニバーサルデザイン

1 ユニバーサルデザインの認知度

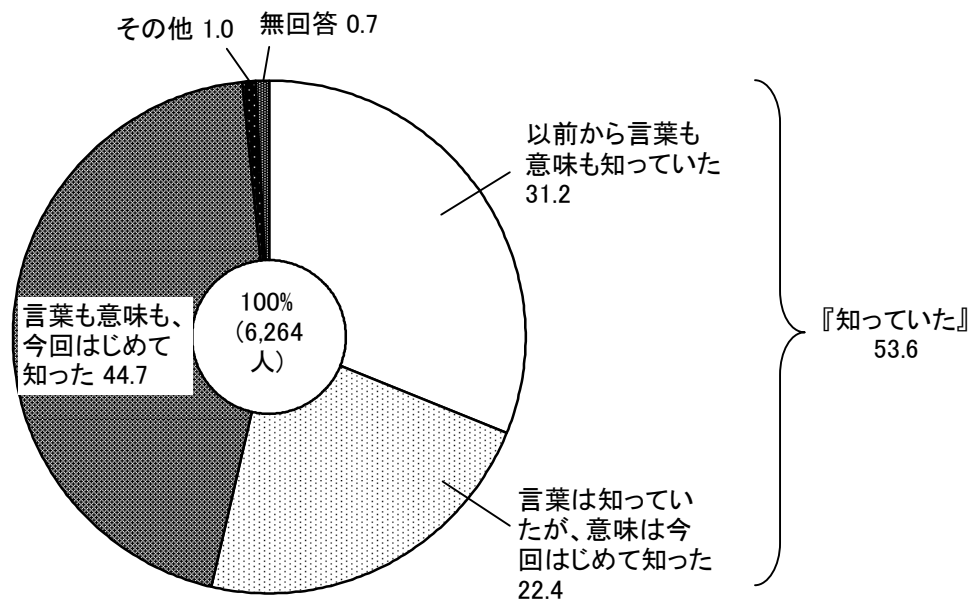
(1) ユニバーサルデザインの認知度

『知っていた』の割合は、約5割

「ユニバーサルデザイン」という言葉や意味を知っていたかどうか聞いたところ、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが、意味は今回はじめて知った」を合わせた、『知っていた』の割合は53.6%となっている。

一方、「言葉も意味も、今回はじめて知った」の割合は44.7%となっている。(図Ⅱ-6-1)

図Ⅱ-6-1 ユニバーサルデザインの認知度

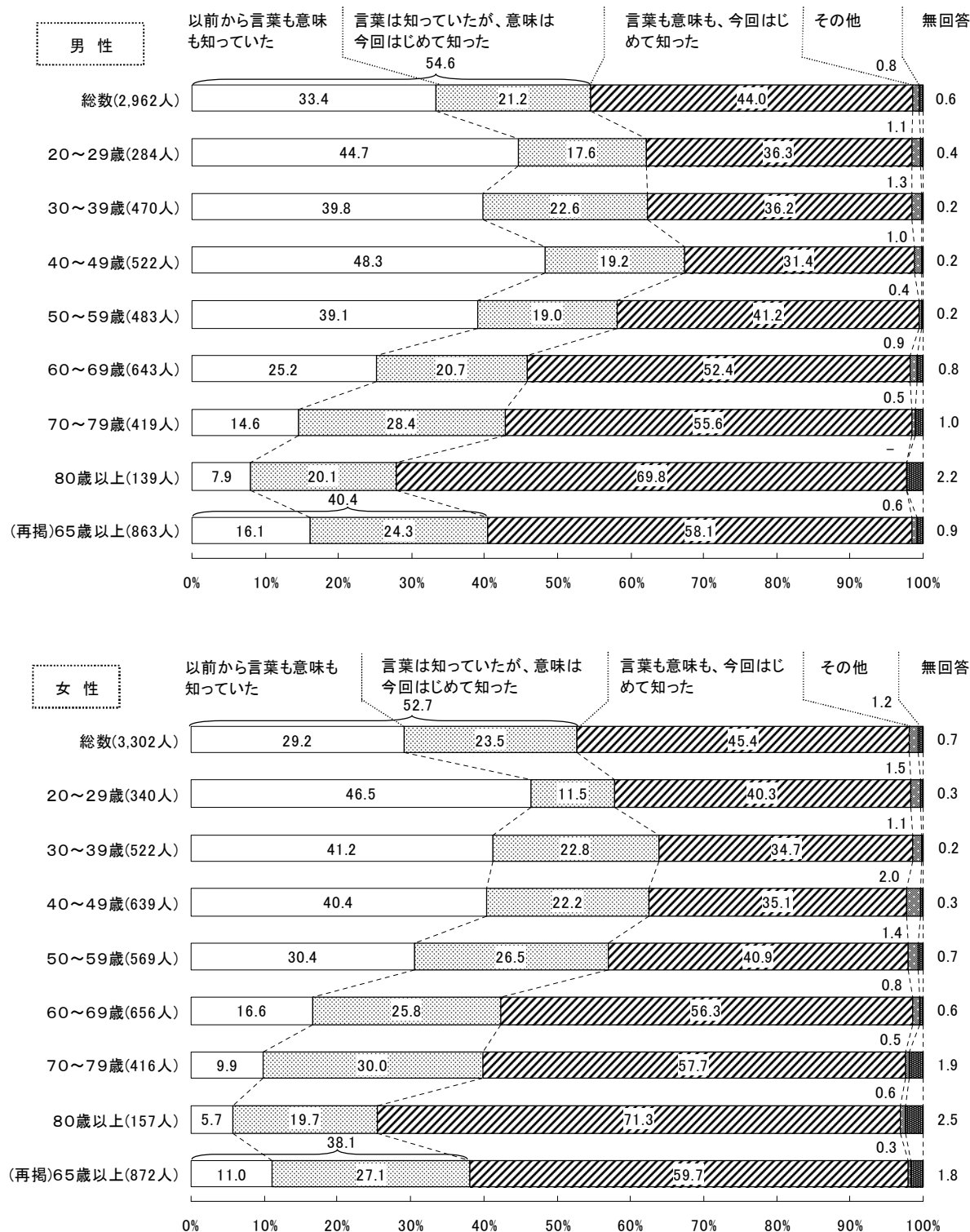


(2) ユニバーサルデザインの認知度－性・年齢階級別

65歳以上は、『知っていた』の割合は、約4割

ユニバーサルデザインの認知度を性・年齢階級別にみると、男女とも『知っていた』の割合は約5割で、65歳以上は約4割となっている。(図Ⅱ-6-2)

図Ⅱ-6-2 ユニバーサルデザインの認知度－性・年齢階級別



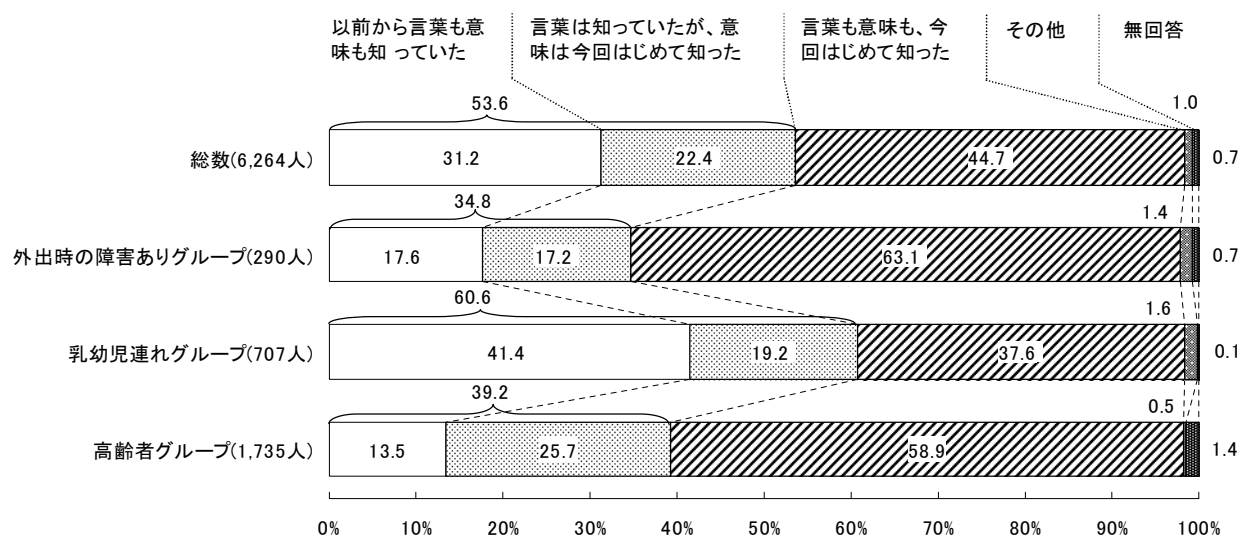
(3) ユニバーサルデザインの認知度－外出時グループ別

「乳幼児連れグループ」は、『知っていた』の割合は、約 6 割

ユニバーサルデザインの認知度を外出時グループ別にみると、「外出時の障害ありグループ」は、『知っていた』が 34.8%と、総数に比べて、18.8 ポイント低く、「高齢者グループ」は 39.2%と、総数に比べて、14.4 ポイント低くなっている。

また、「乳幼児連れグループ」は、『知っていた』が 60.6%と、総数に比べて、7.0 ポイント高くなっている。(図Ⅱ-6-3)

図Ⅱ-6-3 ユニバーサルデザインの認知度－外出時グループ別



2 ユニバーサルデザインについて行政が取り組む必要があるもの〔複数回答〕

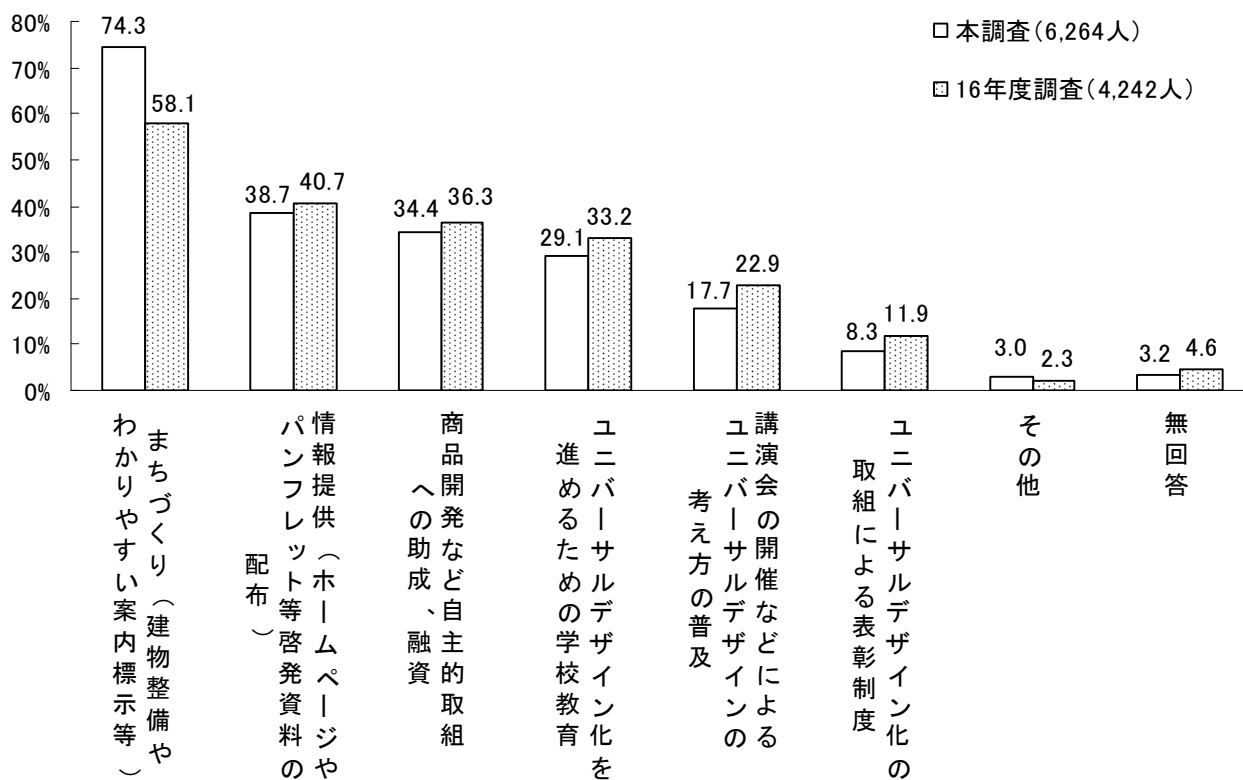
(1) ユニバーサルデザインについて行政が取り組む必要があるもの〔複数回答〕

－16年度調査と比較

「まちづくり（建物整備やわかりやすい案内標示等）」の割合が最も高く、約7割

ユニバーサルデザインの普及・推進に向けて、行政が積極的に取り組む必要があるものを聞いたところ、「まちづくり（建物整備やわかりやすい案内標示等）」の割合が74.3%と最も高く、7割を超えている。（図Ⅱ-6-4）

図Ⅱ-6-4 ユニバーサルデザインについて行政が取り組む必要があるもの〔複数回答〕



(2) ユニバーサルデザインについて行政が取り組む必要があるもの〔複数回答〕

一性、年齢階級、地域別

いずれも「まちづくり（建物整備やわかりやすい案内標示等）」の割合が最も高い

行政が積極的に取り組む必要があるものを性、年齢階級、地域別にみると、いずれも「まちづくり（建物整備やわかりやすい案内標示等）」の割合が最も高くなっている。（表Ⅱ-6-1）

表Ⅱ-6-1 ユニバーサルデザインについて行政が取り組む必要があるもの〔複数回答〕

一性、年齢階級、地域別

		総 数	ま ち づ く り （ 建 物 整 備 や わ か り や す い 案 内 標 示 等 ）	情 報 提 供 （ ホ ー ム ペ ー ジ や パ ン フ レ ッ ト 等 啓 発 資 料 の 配 布 ）	商 品 開 発 な ど 自 主 的 取 組 へ の 助 成 、 融 資	ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン 化 を 進 め る た め の 学 校 教 育	講 演 会 の 開 催 な ど に よ る ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン 化 の 取 組 に よ る 表 彰 制 度	そ の 他	無 回 答	
総数		100.0 (6,264)	<u>74.3</u>	38.7	34.4	29.1	17.7	8.3	3.0	3.2
性 別	男	100.0 (2,962)	<u>72.7</u>	37.9	32.5	29.3	17.4	9.4	4.1	3.0
	女	100.0 (3,302)	<u>75.7</u>	39.4	36.1	28.8	17.9	7.4	2.1	3.4
年 齢 別	20～29歳	100.0 (624)	<u>79.2</u>	39.1	36.4	30.4	13.8	12.2	2.4	1.1
	30～39歳	100.0 (992)	<u>76.6</u>	37.4	38.3	27.1	13.4	10.0	2.2	1.7
	40～49歳	100.0 (1,161)	<u>76.2</u>	40.2	37.6	30.4	16.4	9.1	2.1	1.3
	50～59歳	100 (1,052)	<u>77.9</u>	44.0	38.8	32.1	18.3	7.6	2.7	1.8
	60～69歳	100 (1,299)	<u>71.6</u>	37.4	33.7	29.6	19.1	7.0	2.8	3.4
	70～79歳	100 (835)	<u>68.6</u>	34.7	25.6	26.3	24.9	6.6	4.9	7.1
	80歳以上	100 (296)	<u>64.9</u>	33.8	16.2	21.6	16.6	4.7	7.8	12.8
	(再掲)65歳以上	100 (1,735)	<u>69.0</u>	34.6	25.6	26.3	21.8	5.7	4.8	6.4
地 域 別	区部	100 (3,929)	<u>74.8</u>	38.7	34.7	29.8	17.9	8.2	2.6	3.4
	区中央部	100 (346)	<u>76.3</u>	36.1	35.0	31.8	18.2	7.8	3.2	3.2
	区南部	100 (487)	<u>75.2</u>	39.4	33.3	31.2	16.6	8.2	1.2	4.5
	区西南部	100 (527)	<u>76.7</u>	43.5	38.1	31.1	18.4	8.3	1.5	4.6
	区西部	100 (407)	<u>76.7</u>	38.8	33.4	30.5	19.4	8.8	2.5	5.2
	区西北部	100 (881)	<u>73.4</u>	38.7	37.5	29.9	19.3	7.9	3.4	3.1
	区東北部	100 (603)	<u>74.3</u>	36.3	33.0	26.0	16.7	8.1	2.8	1.5
	区東部	100 (678)	<u>73.2</u>	38.1	31.7	29.4	16.4	8.6	2.9	2.7
	市・町・村部	100 (2,335)	<u>73.5</u>	38.6	33.9	27.9	17.3	8.4	3.8	2.9
	西多摩	100 (333)	<u>73.0</u>	34.8	33.6	26.4	17.7	9.9	5.7	5.4
	南多摩	100 (757)	<u>73.8</u>	36.6	34.2	26.6	16.8	7.4	3.4	4.2
	北多摩西部	100 (236)	<u>73.3</u>	36.0	33.9	31.8	15.7	10.2	3.8	3.4
	北多摩南部	100 (577)	<u>76.1</u>	40.0	37.1	31.0	18.4	9.0	3.3	1.4
	北多摩北部	100 (432)	<u>70.1</u>	44.7	29.2	25.2	17.6	7.4	3.5	0.5

第7章 東京の福祉のまちづくり

1 東京の福祉のまちづくりの印象

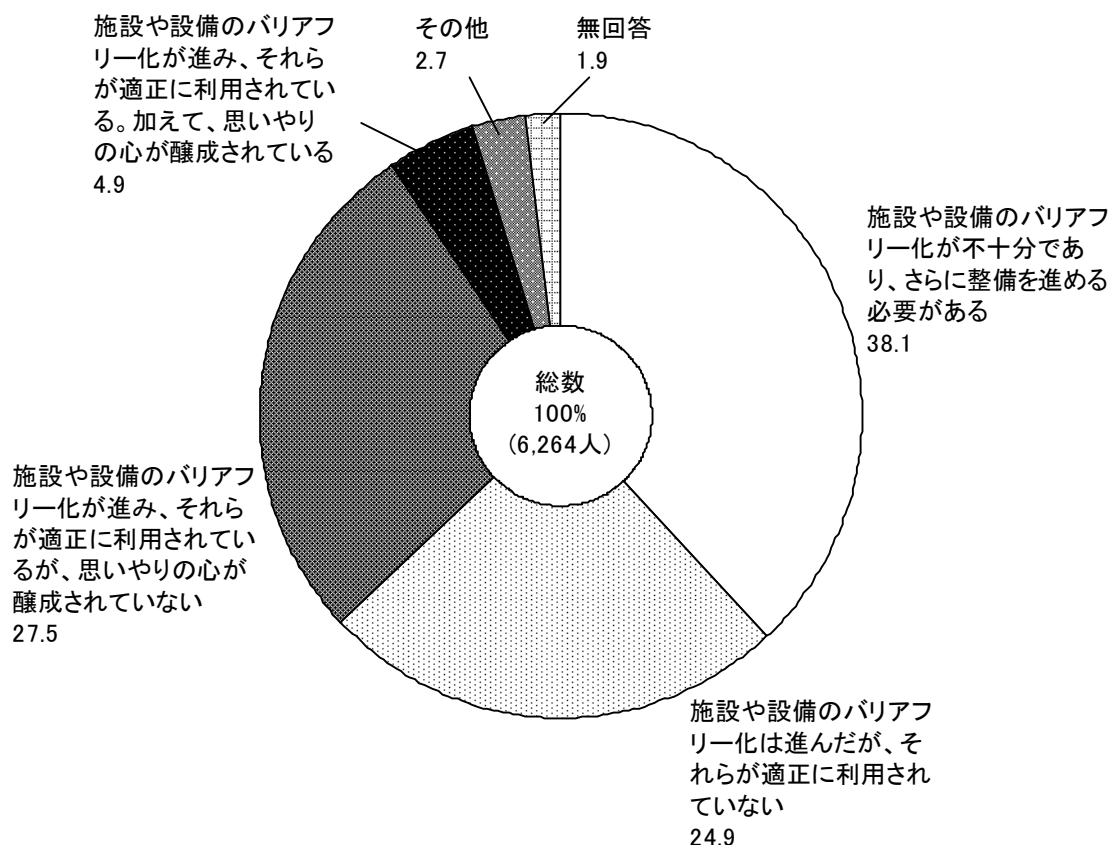
(1) 東京の福祉のまちづくりの印象

「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人の割合は、5割超

東京の福祉のまちづくりの印象を聞いたところ、「施設や設備のバリアフリー化が進み、それらが適正に利用されているが、思いやりの心が醸成されていない」が27.5%、「施設や設備のバリアフリー化は進んだが、それらが適正に利用されていない」が24.9%、「施設や設備のバリアフリー化が進み、それらが適正に利用されている。加えて、思いやりの心が醸成されている」が4.9%で、「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人の割合は57.3%となっている。

一方、「施設や設備のバリアフリー化が不十分であり、さらに整備を進める必要がある」の割合は38.1%となっている。(図Ⅱ-7-1)

図Ⅱ-7-1 東京の福祉のまちづくりの印象



(注)「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人とは、「施設や設備のバリアフリー化は進んだが、それらが適正に利用されていない」と「施設や設備のバリアフリー化が進み、それらが適正に利用されているが、思いやりの心が醸成されていない」と「施設や設備のバリアフリー化が進み、それらが適正に利用されている。加えて、思いやりの心が醸成されている」の3項目いずれかを回答した人をさす。

(2) 東京の福祉のまちづくりの印象－性・年齢階級別

「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人の割合は、男女いずれの年齢階級でも、5割超（女性80歳以上は除く）

東京の福祉のまちづくりの印象を性・年齢階級別にみると、「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人の割合は、女性80歳以上を除き、男女いずれの年代でも5割を超えている。（表Ⅱ-7-1）

表Ⅱ-7-1 東京の福祉のまちづくりの印象－性・年齢階級別

	総 数	め不施 る十設 必分や 要で設 があ備 り、の る、バ さり アにフ 整リ 備― を化 進が	さ進施 れん設 てだや いが設 ない、備 いその れバ らがア 適フ 正リ に― 利化 用は	さて進 れいみ てゐ設 る、や いがそ ない思 い、の い、バ り正ア のにフ 心利リ が用― 釀さ化 成れが	がて進 釀いみ 成る、設 さ。そ され、加 てえ、れ る、適 、適 思正 いにフ り利リ のさ 心化 れが	そ 他	無 回 答
総数	100.0 (6,264)	38.1	24.9	27.5	4.9	2.7	1.9
				57.3			
男	100.0 (2,962)	36.7	26.2	27.3	5.2	2.9	1.7
20～29歳	100.0 (284)	36.3	29.9	23.9	6.0	2.5	1.4
				59.9			
30～39歳	100.0 (470)	35.3	32.6	25.7	3.2	2.3	0.9
				61.5			
40～49歳	100.0 (522)	36.2	32.6	24.7	3.1	2.1	1.3
				60.3			
50～59歳	100.0 (483)	37.3	25.9	27.5	5.0	3.5	0.8
				58.4			
60～69歳	100.0 (643)	40.3	21.2	29.4	5.3	2.3	1.6
				55.8			
70～79歳	100.0 (419)	32.5	18.6	32.9	8.1	4.8	3.1
				59.7			
80歳以上	100.0 (139)	37.4	19.4	23.0	9.4	4.3	6.5
				51.8			
(再掲)65歳以上	100.0 (863)	35.1	20.3	30.5	7.5	3.7	2.9
女	100.0 (3,302)	39.4	23.7	27.6	4.6	2.5	2.1
20～29歳	100.0 (340)	40.9	21.8	31.5	3.5	2.4	—
				56.8			
30～39歳	100.0 (522)	41.6	29.1	24.1	1.7	2.5	1.0
				55.0			
40～49歳	100.0 (639)	38.8	29.7	25.4	2.3	2.2	1.6
				57.4			
50～59歳	100.0 (569)	46.9	22.8	25.3	2.8	1.1	1.1
				51.0			
60～69歳	100.0 (656)	34.3	23.2	29.3	8.1	2.4	2.7
				60.5			
70～79歳	100.0 (416)	34.4	14.7	33.9	8.2	3.8	5.0
				56.7			
80歳以上	100.0 (157)	38.9	15.9	24.8	8.3	5.7	6.4
(再掲)65歳以上	100.0 (872)	34.2	17.5	30.7	9.2	3.8	4.6

(3) 東京の福祉のまちづくりの印象－地域別

「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人の割合は、いずれの地域でも、5 割超

東京の福祉のまちづくりの印象を地域別にみると、「バリアフリー化が進んだ」との印象を持っている人の割合は、いずれの地域でも 5 割を超えている。

一方、いずれの地域でも「施設や設備のバリアフリー化が不十分であり、さらに整備を進める必要がある」の割合が最も高くなっている。(表Ⅱ-7-2)

表Ⅱ-7-2 東京の福祉のまちづくりの印象－地域別

	総 数	め不施 る十設 必分や 要で設 があり の備 、さ り に 整 備 を 化 進 が	さ進施 れん設 てだや いが設 な、備 い、の れバ らリ がア 適フ 正リ に利 用は	さて進施 れいみ設 てる、や いがそ設 な、れ備 い、思 ら、の や適 リ正 のに 心利 が用 が 釀 さ 化 成 れ が	がて進施 釀いみ設 成る、や さ。そ設 れ加れ備 てえら の、の 適 正 思 に や 利 用 の さ 化 心 れ が	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (6,264)	38.1	24.9	27.5	4.9	2.7	1.9
			57.3				
区部	100.0 (3,929)	38.1	24.0	28.7	4.8	2.6	1.8
			57.5				
区中央部	100.0 (346)	41.0	22.3	28.0	4.9	2.9	0.9
			55.2				
区南部	100.0 (487)	30.4	27.5	29.4	6.4	3.9	2.5
			63.2				
区西南部	100.0 (527)	43.8	20.5	27.5	4.2	2.7	1.3
			52.2				
区西部	100.0 (407)	38.6	23.8	26.0	7.1	1.7	2.7
			57.0				
区西北部	100.0 (881)	36.1	26.9	29.2	3.2	3.0	1.7
			59.3				
区東北部	100.0 (603)	38.3	24.2	28.5	5.5	2.2	1.3
			58.2				
区東部	100.0 (678)	39.7	21.4	30.7	4.0	2.2	2.1
			56.0				
市・町・村部	100.0 (2,335)	38.2	26.3	25.5	5.1	2.8	2.2
			56.9				
西多摩	100.0 (333)	37.8	30.0	21.0	4.5	2.1	4.5
			55.6				
南多摩	100.0 (757)	37.9	25.8	26.6	4.2	2.9	2.6
			56.5				
北多摩西部	100.0 (236)	37.3	30.5	24.6	2.5	3.0	2.1
			57.6				
北多摩南部	100.0 (577)	38.0	23.9	27.6	7.5	2.1	1.0
			58.9				
北多摩北部	100.0 (432)	39.6	25.5	24.8	5.1	3.9	1.2
			55.3				

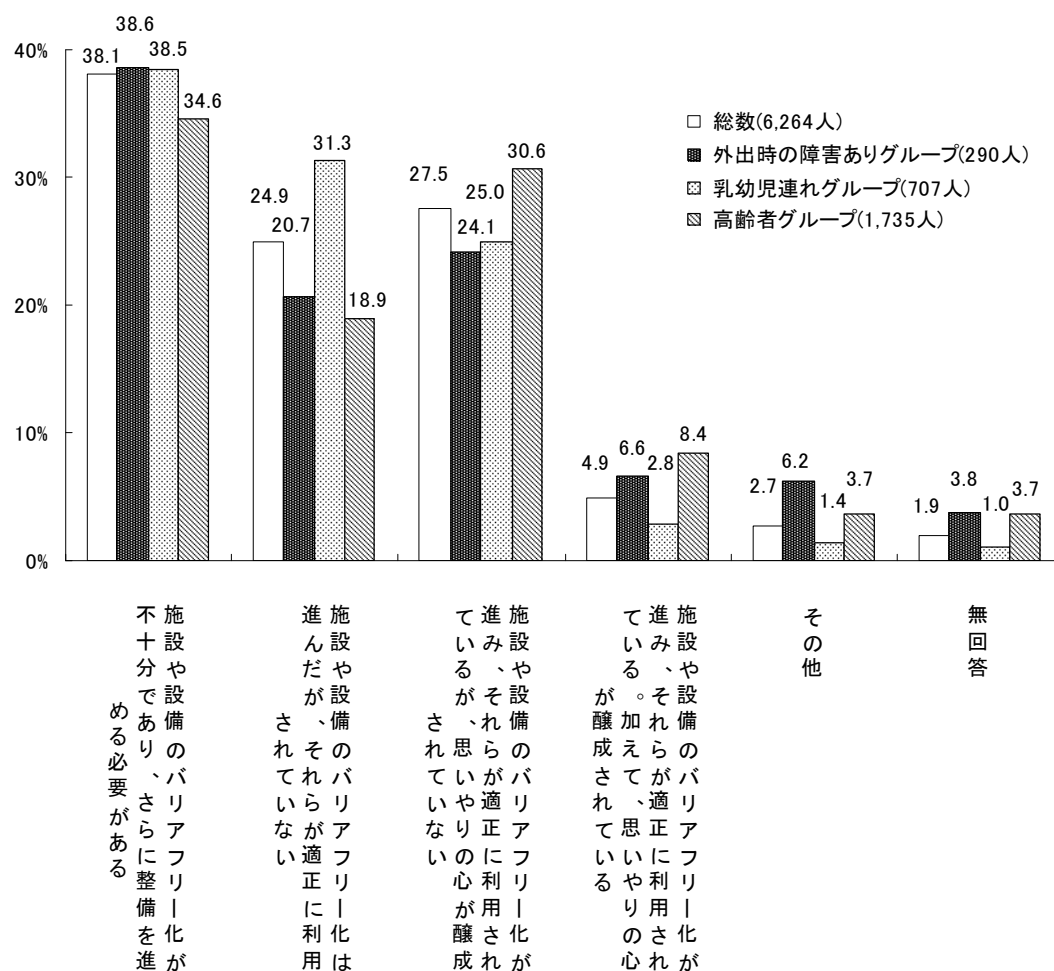
(4) 東京の福祉のまちづくりの印象－外出時グループ別

「乳幼児連れグループ」は、「バリアフリー化は進んだが、適正に利用されていない」との印象を持っている人の割合が、総数に比べて高く、約3割

東京の福祉のまちづくりの印象を外出時グループ別にみると、いずれのグループでも、「施設や設備のバリアフリー化が不十分であり、さらに整備を進める必要がある」の割合が最も高くなっている。

「乳幼児連れグループ」は、「施設や設備のバリアフリー化が進んだが、それらが適正に利用されていない」の割合が31.3%と、総数に比べて、6.4ポイント高くなっている。(図Ⅱ-7-2)

図Ⅱ-7-2 東京の福祉のまちづくりの印象－外出時グループ別



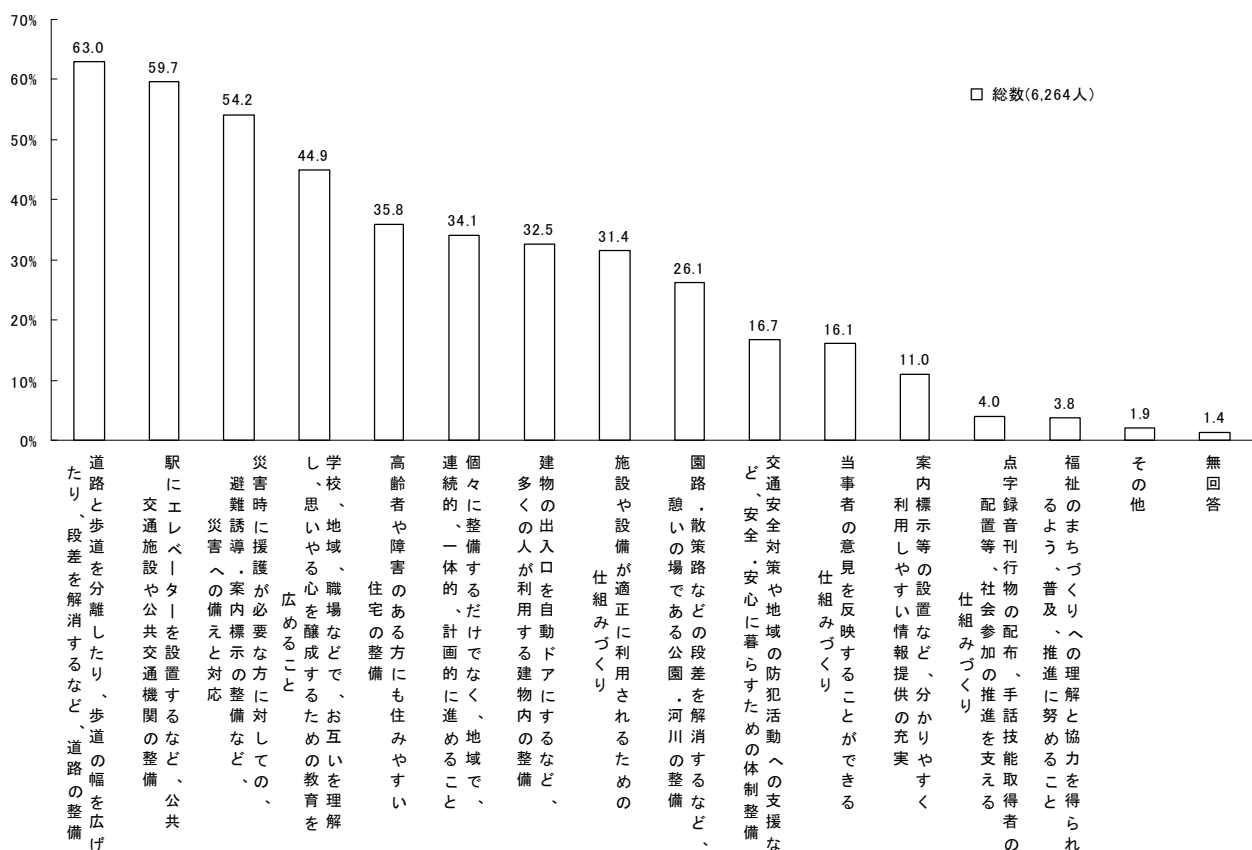
2 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること

(1) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕

「道路の整備」「公共交通施設・機関の整備」「災害への備えと対応」の3項目の割合が高く、それぞれ5割超

今後「福祉のまちづくり」を進めていくにあたり、東京都が特に重点をおいて取り組む必要があると思うことを聞いたところ、「道路と歩道を分離したり、歩道の幅を広げたり、段差を解消するなど、道路の整備」の割合が最も高く63.0%、次いで「駅にエレベーターを設置するなど、公共交通施設や公共交通機関の整備」が59.7%、「災害時に援護が必要な方に対しての、避難誘導・案内標示の整備など、災害への備えと対応」が54.2%と続いている。(図Ⅱ-7-3)

図Ⅱ-7-3 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕



(2) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕 一性・年齢階級別

「思いやりの心の教育」の割合は、約3～5割

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があることを性・年齢階級別にみると、いずれの年代においても、「公共交通施設・機関の整備」「道路の整備」「災害への備えと対応」の3項目に加え、「学校、地域、職場などで、お互いを理解し、思いやる心を醸成するための教育を広めること」の割合が高く、各年代で約3～5割となっている。(表Ⅱ-7-3)

表Ⅱ-7-3 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕

一性・年齢階級別

	総数	整備、駅にエレベーターや公共交通機関の設置など	整備、多くの人が利用する自動ドアの設置など	建物、道路の整備	幅、道路の整備	道路と歩道の分離	川の整備	園路・散策路などの整備	め、連続的、一体的、計画的に進めること	個々、住宅の整備	高齢者や障害のある方にも住みやすい住宅の整備	取得者の配置等、社会参加の推進	点字録音物の配布、手話技能の習得	交通安全対策や地域の防犯活動への支援など、安全・安心なまちづくりのための体制整備	災害時の避難誘導、災害への備えと対応	災害時の避難誘導、災害への備えと対応	案内標示等の設置など、分かりやすいまちづくりへの理解と協力	福祉のまちづくりへの理解と協力	当事者の意見を反映することができ、まちづくりの推進に努めること	施設の整備が適正に利用されるため、まちづくりの推進に努めること	学校、地域、職場などで、お互いを理解し、思いやる心を醸成すること	その他	無回答
総数	100.0 (6,264)	59.7	32.5	63.0	26.1	34.1	35.8	4.0	16.7	54.2	11.0	3.8	16.1	31.4	44.9	1.9	1.4						
男	100.0 (2,962)	<u>57.3</u>	31.8	<u>63.6</u>	29.2	35.9	35.2	4.0	16.3	<u>50.5</u>	11.2	4.4	16.3	32.0	<u>42.2</u>	2.5	1.4						
20～29歳	100.0 (284)	<u>56.0</u>	33.5	<u>63.0</u>	26.4	39.1	25.7	4.9	17.3	<u>47.5</u>	16.5	7.0	16.5	30.6	<u>38.7</u>	2.1	0.7						
30～39歳	100.0 (470)	<u>59.6</u>	33.8	<u>62.1</u>	30.9	36.6	31.7	5.5	13.6	<u>41.9</u>	9.6	4.7	16.2	34.3	<u>43.0</u>	1.9	0.6						
40～49歳	100.0 (522)	<u>56.5</u>	30.8	<u>65.5</u>	27.4	37.0	33.3	4.4	14.8	<u>47.5</u>	9.8	2.7	16.7	35.6	<u>44.4</u>	2.7	0.8						
50～59歳	100.0 (483)	<u>58.4</u>	33.1	<u>63.1</u>	23.8	36.6	36.0	5.4	16.6	<u>53.2</u>	11.8	3.3	15.9	32.3	<u>41.8</u>	3.5	0.4						
60～69歳	100.0 (643)	<u>55.2</u>	30.8	<u>64.4</u>	30.8	39.5	39.7	3.4	17.9	<u>56.9</u>	11.2	4.0	16.6	30.9	<u>43.4</u>	2.6	1.2						
70～79歳	100.0 (419)	<u>57.8</u>	27.7	<u>67.1</u>	36.8	28.6	39.9	1.7	19.6	<u>52.5</u>	11.5	5.0	17.7	29.4	<u>42.0</u>	1.9	2.9						
80歳以上	100.0 (139)	<u>60.4</u>	37.4	<u>51.1</u>	25.2	26.6	36.0	0.7	10.8	<u>52.5</u>	9.4	7.9	10.8	25.2	<u>35.3</u>	1.4	5.8						
(再掲)65歳以上	100.0 (863)	<u>59.0</u>	30.1	<u>63.0</u>	33.5	32.4	37.5	1.9	19.0	<u>54.6</u>	11.4	5.0	16.0	28.9	<u>41.5</u>	2.4	2.8						
女	100.0 (3,302)	<u>61.8</u>	33.2	<u>62.5</u>	23.3	32.4	36.3	4.1	17.1	<u>57.6</u>	10.9	3.3	15.9	30.8	<u>47.3</u>	1.4	1.4						
20～29歳	100.0 (340)	<u>62.9</u>	37.1	<u>54.7</u>	24.1	30.6	35.0	5.6	18.2	<u>57.4</u>	12.1	3.8	14.7	35.6	<u>41.2</u>	1.5	0.9						
30～39歳	100.0 (522)	<u>63.0</u>	37.4	<u>66.9</u>	21.3	36.0	26.6	3.4	16.1	<u>54.2</u>	7.3	2.9	15.1	36.4	<u>49.8</u>	1.0	1.5						
40～49歳	100.0 (639)	<u>61.0</u>	34.6	<u>64.3</u>	20.3	33.5	34.1	4.7	14.9	<u>53.4</u>	10.0	2.3	13.3	31.3	<u>52.4</u>	1.6	0.8						
50～59歳	100.0 (569)	<u>63.8</u>	34.6	<u>67.5</u>	19.0	34.6	38.1	5.6	16.9	<u>62.6</u>	11.6	2.8	16.3	30.2	<u>49.4</u>	0.9	0.4						
60～69歳	100.0 (656)	<u>58.1</u>	28.5	<u>61.1</u>	25.6	31.7	43.3	2.7	19.1	<u>61.0</u>	11.9	4.0	20.3	29.4	<u>49.5</u>	1.2	1.8						
70～79歳	100.0 (416)	<u>63.7</u>	28.4	<u>61.1</u>	29.3	31.0	38.5	2.9	18.0	<u>56.7</u>	13.0	3.8	17.8	24.5	<u>40.6</u>	1.9	2.4						
80歳以上	100.0 (157)	<u>63.1</u>	32.5	<u>47.8</u>	29.3	19.7	38.2	3.2	17.2	<u>55.4</u>	11.5	4.5	7.6	23.6	<u>32.5</u>	3.8	3.8						
(再掲)65歳以上	100.0 (872)	<u>60.8</u>	28.4	<u>58.7</u>	29.4	28.6	40.1	3.0	18.3	<u>58.0</u>	11.8	4.2	16.6	25.9	<u>41.4</u>	2.1	2.8						

いずれの地域でも、「災害時の備えと対応」の割合は、約5割

表Ⅱ-7-4 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕一地域別

– 171 –

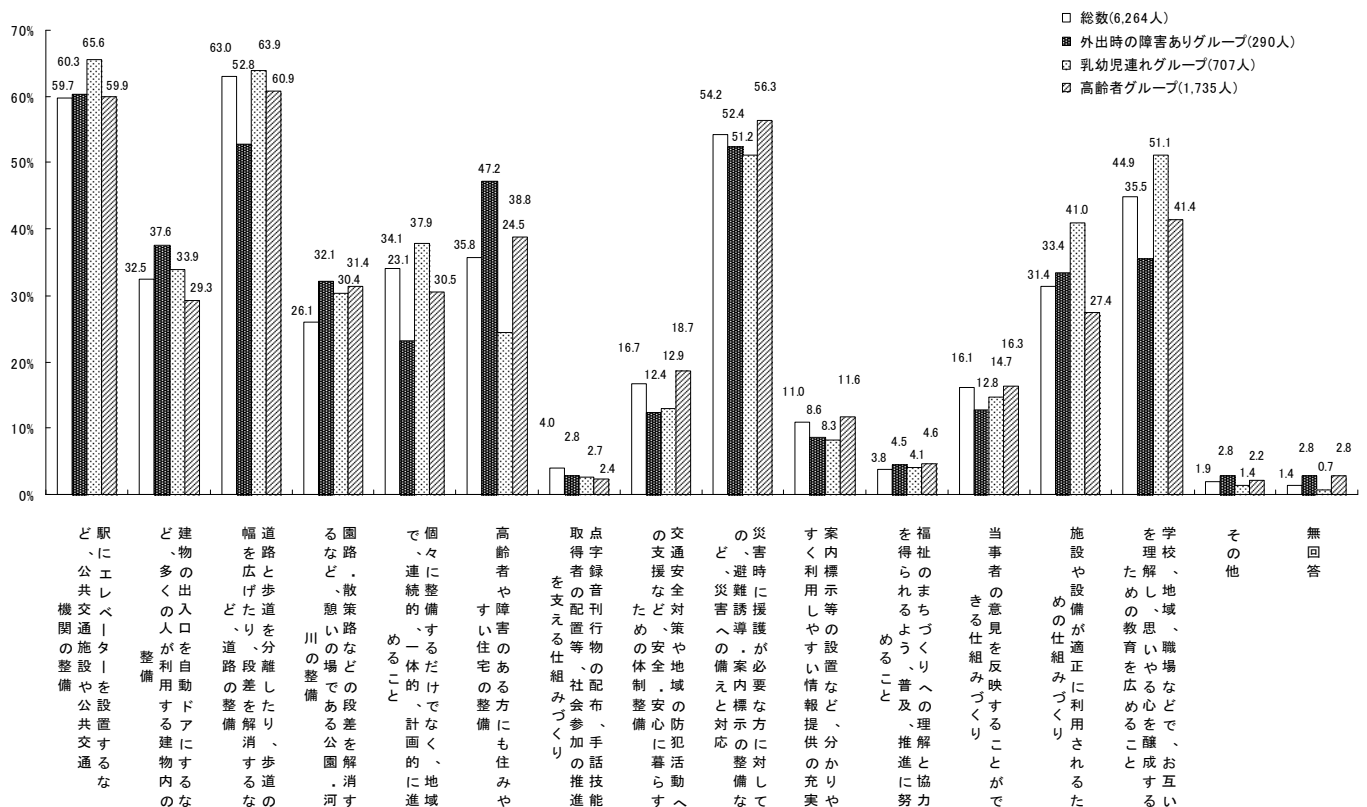
(4) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕－外出時グループ別

「乳幼児連れグループ」は、「施設や設備が適正に利用されるための仕組みづくり」の割合が、総数に比べて高い

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があることを外出時グループ別にみると、総数に比べて割合が高い項目として、「外出時の障害ありグループ」では、「高齢者や障害のある方にも住みやすい住宅の整備」が47.2%と、総数に比べて、11.4ポイント高くなっている。

「乳幼児連れグループ」では、「施設や設備が適正に利用されるための仕組みづくり」が41.0%と、総数に比べて、9.6ポイント高くなっている。(図Ⅱ-7-4)

図Ⅱ-7-4 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕
－外出時グループ別



(5) 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

いずれの障害でも、「公共交通施設・機関の整備」の割合が最も高く、約 6 割

福祉のまちづくりで特に重点をおいて取り組む必要があることを外出時の障害の有無別にみると、いずれの障害でも、「駅にエレベーターを設置するなど、公共交通施設や公共交通機関の整備」の割合が最も高く、約 6 割となっている。（表Ⅱ-7-5）

表Ⅱ-7-5 福祉のまちづくりで特に重点的に取り組む必要があること〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

	総 数	、駅にエレベーターや公共交通施設や公共交通機関の整備	整備	建物の出入口が利用する建物内など	幅を広く、段差を解消するなどの整備	道路と歩道を分離したり、歩道の整備	川の整備	園路・散策路などの段差を公園・河川沿いの整備	個々人に配慮した、一体的、計画的に進めること	高齢者や障害のある方にも住みやすい住宅の整備	点字録音刊行物の配布、手話技能取得者の配置等、社会参加の推進	点字録音刊行物の配布、手話技能取得者の配置等、社会参加の推進	交通手段の整備	災害時の避難誘導、案内表示の整備など、災害への備えと対応	災害時の避難誘導、案内表示の整備など、災害への備えと対応	案内表示等の設置など、分かりやすく利用しやすい情報提供の充実	福祉のまちづくりへの理解と協力を得られるよう、普及、推進に努めること	当事者の意見を反映することができ、まちづくりへの理解と協力を得られるよう、普及、推進に努めること	施設の整備が適正に利用されるため、まちづくりの整備	学校、地域、職場などでの、お互いの理解し、思いやる心を醸成すること	その他	無 回 答
総数	100.0 (6,264)	59.7	32.5	63.0	26.1	34.1	35.8	4.0	16.7	54.2	11.0	3.8	16.1	31.4	44.9	1.9	1.4					
外出時に何らかの障害がある	100.0 (290)	60.3	37.6	52.8	32.1	23.1	47.2	2.8	12.4	52.4	8.6	4.5	12.8	33.4	35.5	2.8	2.8					
視覚	100.0 (74)	<u>60.8</u>	36.5	48.6	32.4	17.6	51.4	5.4	12.2	48.6	10.8	9.5	12.2	32.4	32.4	4.1	4.1					
聴覚	100.0 (93)	<u>61.3</u>	36.6	48.4	36.6	24.7	39.8	3.2	9.7	54.8	9.7	5.4	11.8	29.0	41.9	3.2	2.2					
肢体	100.0 (192)	<u>62.0</u>	42.2	54.2	29.2	21.9	52.1	2.6	13.0	47.4	5.7	5.2	9.9	39.1	32.8	2.6	3.6					
内部	100.0 (104)	<u>61.5</u>	40.4	44.2	28.8	18.3	56.7	1.9	10.6	49.0	4.8	5.8	14.4	41.3	35.6	1.9	4.8					
その他	100.0 (132)	<u>62.9</u>	41.7	50.8	29.5	25.8	50.8	3.0	9.8	53.8	6.8	3.8	13.6	40.2	35.6	2.3	3.8					
外出時に障害がない	100.0 (5,932)	59.7	32.3	63.6	25.7	34.6	35.1	4.1	17.0	54.3	11.2	3.8	16.2	31.3	45.4	1.9	1.2					